



国有林野
事業の取組

中部森林管理局

地域と連携した 荒廃地の早期復旧を目指した 森林づくり



植樹祭式典(植栽樹種の説明)▲

記念モニュメントと共に記念撮影▼



Rjnya No.39

中部森林管理局は、このたび、台風に伴う豪雨により山腹斜面の崩壊が発生した箇所を森林に再生する取組として、小学校など地域と連携した植樹祭等を行いました。この植樹祭では、様々な樹種を用いて混植、密植する方法をモデル的に取り入れ、早期の森林再生を目指します。

中部森林管理局では、国民の安心・安全の確保に向けた国土保全対策として、自然災害によって発生した荒廃地等の復旧に治山事業を通じて取り組むとともに、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり、森林環境教育の推進など多様な要請に応え、開かれた「国民の森林」の実現に向けた

取組を推進しています。また、本年10月に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれるなど生物多様性の保全が国際的にも重要な課題と認識されている中で、森林の保全管理においても生物多様性に配慮した取組がますます必要となっています。

荒廃地に、広葉樹等を 密植・混植

平成22年5月18日、こうした取組の一環として、台風に伴う豪雨により山腹斜面が崩れて荒廃地化した箇所において、地元小学校など地域と連携した植樹活動を行いました。

この活動は、「ふるさとの森林づくり植樹祭」として、次代を担う子どもたち、地域や全国各地で森林づくりに関心を持つ人々にも広く参加を呼びかけたことで、地元の小学校、一般参加者、ボランティア、NPOなど総勢約600人の参加者が集まりました。この植樹祭は、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)のパートナーシップ事業としても登録されています。

植樹祭の実施箇所は、長野県東部佐久市にあり、東信森



林管理署管内荒船山国有林の中で、平成19年の台風9号により山腹崩壊が発生し、21年度まで治山事業により山腹斜面の復旧を実施した箇所の下部にある0.5ヘクタールの緩斜面です。

今回は、宮脇昭横浜国立大学名誉教授の協力を得ながら、地域の潜在自然植生(人為が加わらなくなった後に、その時点の環境下において最終的に成立する植生)に着目したモデル的な取組として植樹を行いました。

植樹祭では、ブナ、ミズナラ、イタヤカエデ、ヤマボウシなど落葉広葉樹12種類に落葉広葉樹林に混生するウラジロモミ(針葉樹)を加えた計13種類5千本を植え付けました。

地元小学校での 事前学習

今回の植樹祭を実施するに当たり、地元の佐久市立佐久



アニメ劇「みんなで木を植えよう」

城山小学校に参加を呼びかけたところ、小学校から開校30周年記念事業として取り組みたいとの提案をいただき、全校児童、保護者、教職員が参加する全校行事に位置づけ、森林管理局との共催の形をとることになりました。また、一過性のイベントではなく、植樹祭の実施前に、①保護者・教職員を対象にした森林保全の講演、②森林教室(1、4年生は、声優劇団の協力を得たアニメ劇「みんなで木を植えよう」、



「森林のはたらき」の学習



木の葉に記した植樹祭に寄せる思い

5・6年生は森林管理署職員による「森林のはたらき」の学習)、③記念モノUMENTの製作、④植樹祭への思いの寄せ書きなどを併せて行いました。

今後の取組

今後は、植樹した樹木の成育状況などをモニタリングし



植樹祭に寄せる思い・森の愛称とともに植樹

ながら、その結果を今後の森林づくりに活用する予定です。また、今回植樹祭を行った森林は植樹に携わった児童により「城山 夢いっぱい森」と愛称がつけられました。この児童の思いを大切にしながら、今後ともこの森林を地域の森林環境教育の教材として活用していきます。